

○廃棄・遺棄情報

- ・終戦時、イペリット・ルイサイトなどが「若干」残存し、「一部は自ら処分、大部分は進駐軍に引渡しその監督下に処分」した〔1〕。

・元関係者の証言として、「終戦時、イペリット缶とルイサイト缶（合わせて約6 t）・青酸ボンベ（若干）を保有しており、これらは学校敷地内において晒粉で中和し埋設し（材料廠付近地下）、青酸は大気に放出した。また、これとは別に各種毒物若干を銚子沖に投棄した」と記載されている〔6〕。

○発見・被災・掃海等処理情報

- ・昭和26年6月28日、千葉県習志野でルイサイト入りの缶3本発見により演習中の自衛隊員14名負傷したと記載されている〔7〕。
- ・連合軍総司令部は、埋設されていた日本軍の毒ガスを、昭和26年10月24日を予定として千葉県習志野の米軍兵舎内で焼却処分すると発表している〔8〕。
- ・昭和35年2月17日から19日にかけて、千葉県習志野で、ルイサイト入りドラム缶1個が発見されたと記載されている〔7〕。
- ・昭和35年3月4日から11日にかけて、千葉県習志野で催涙剤（固体）10kgが発見され、土地の除染と海洋投棄を行ったと記載されている〔7〕。
- ・昭和37年8月21日に、千葉県習志野でイペリット弾8発が発見されている〔9〕。
- ・昭和37年9月に、千葉県習志野でイペリット弾2発が発見されたと記載されている〔7〕〔9〕。
- ・昭和39年11月18日に、千葉県習志野で旧軍ガスボンベ6本（大2本・小4本）が発見されたと記載されている〔7〕。

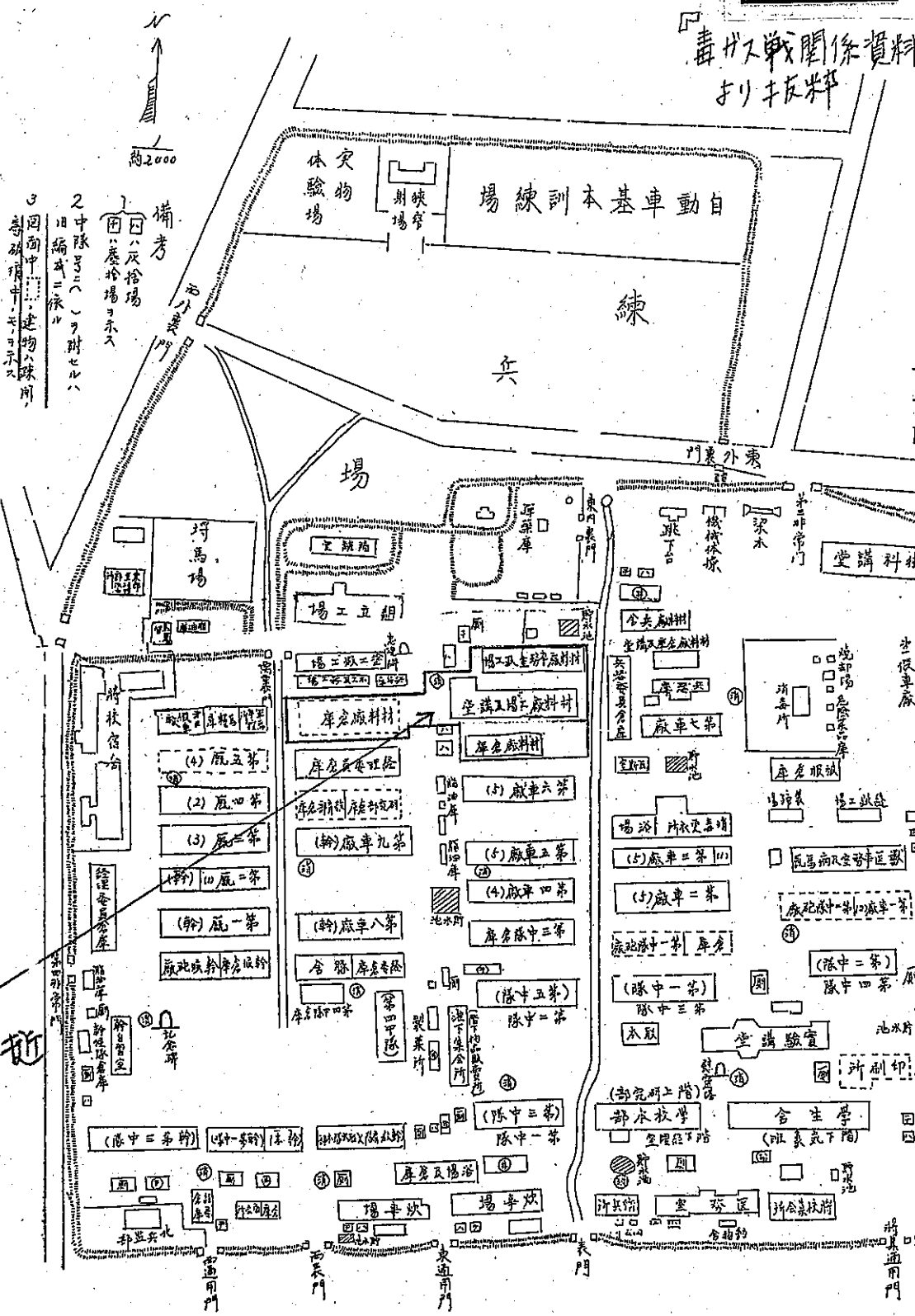
○現在の状況

- ・陸軍習志野学校跡地は戦後、警察署、教育施設、県営住宅、関東財務局宿舍や関東財務局の未利用地となっている〔1〕〔11〕。
- ・平成6年に合同宿舍の建築に当たり地下埋設物の状況について関東財務局の調査が行われ、八角形の基礎及び煙突状建築物などが確認されている〔10〕。
- ・平成15年5月8日に、旧軍習志野学校跡地において、水質調査が行なわれたが、異常はなかった〔13〕。
- ・平成15年7月28日に、旧軍習志野学校跡地で、現在、保育所となっている土地において、ヒ素に関する土壌調査が行なわれたが、異常はなかった〔13〕。

別紙 4

毒ガス戦関係資料
オリ板料

学校内建物配置要図



材料廠

聞き取り調査の記入様式

事案名：

陸軍習志野学校における毒ガス処理について（千葉県）

(1) 聞き取り日時

平成16年 3月15日（月）

10時25分 ～ 12時30分

対応者：環境省、財務省、千葉県、船橋市、習志野市

(2) 情報の受信方法

☒ 面会 ☐ 電話 ☐ ファクシミリ ☐ 電子メール

その他：（ ）

(3) 情報提供者の連絡先（プライバシーに留意して対応すること）

情報提供者に関しては、ご本人からではなく、 から確認させていただいた情報である。・氏名：

・生年月日：明・大・昭 年 月 日

・年齢： 歳

・性別：☒ 男 ☐ 女・自宅住所：〒 ・自宅電話：

・勤務先名：

・勤務先電話：（ ）

・携帯電話：（ ）

* 聴取記録の保存に際しては、個人情報等に留意すること。

(4) 内容はいつ頃の時期の話か

昭和・平成18年10月18日～昭和20年8月26、27日

(5) 情報提供者の当時の職業等

- ・ 当時の職業 : 軍人
- ・ 当時の配属地名 : 千葉県習志野市
- ・ 配属部隊名 : 習志野学校幹部構成隊
(昭和18年10月18日に満州中隊から配属)
- ・ 当時の地位 : 区隊長、中隊長
- ・ 戦友会もしくは当時の状況を知る同僚等に関する情報
当時の状況を知る同僚は、存命者3名
 - ① 材料廠事務官 : ██████████ (██████████ 在住)
 - ② 軍医 : ██████████ ███████ 才
(陸軍習志野学校 P486、487 に記載有り)

(6) 情報提供内容の区分

- ① 終戦時における旧軍毒ガス弾等の
保有 ・ 廃棄
- ② 戦後における旧軍毒ガス弾等の
発見 ・ 掃海 ・ 被災
- ③ 旧軍毒ガス弾等の
放置 ・ 隠蔽
- ④ その他の場合は概要を記載

(7) 提供された情報の内容

- ① 本人の 直接行為 ・ その行為の目撃 ・ 伝聞 なのかを確認
 ご本人の推測
 ・ 作業者の数：不明
 ・ 作業者の氏名：不明
- ② 製造、運搬、配備及び廃棄等の場合、既に確認されている事実かを確認
 確認済 ・ 未確認
- ③ 廃棄、放置及び隠蔽等の場合
 ・ 埋設、焼却等の方法
 習志野学校は、化学兵器関連の知見を有した人材が多くいたため、毒ガスは下記の方法で処理していると思われる。
 ①ドラム缶から鉄板の上にイペリットを撒き、その上でさらし粉と混合・攪拌し、無害化。さらに、イペリットが充填されていたドラム缶もさらし粉と水で無毒化。
 ②レイサイトは、ドラム缶に充填のまま処理の可能性あり。
- ・ 数（量）
 フォローアップ報告書によれば、終戦時の保有量がイペリット缶とレイサイト缶を合わせて約6 tと記載されているが、そのうち1～2 tを処理したと思われる。
- ・ 形態
 レイサイトは、ドラム缶に充填のまま処理の可能性あり。
 （参考）
 ドラム缶形状：高さ73 cm、直径46 cm、厚さ5 mm
 （レイサイト用ドラム缶は鉛張り）
 ドラム缶重量：約70 kg
 （持ち上げた時の感触であり、体重計等での測定値ではない）
- ・ 毒ガス弾等の種類：イペリット、レイサイト等
- ・ 廃棄等の時期：不明
- ・ 場所
 真毒使用所（射撃場北側）、特殊弾格納庫周辺の可能性あり
- ・ 位置（地図等で十分に確認）
 別紙1、2参照
- ・ 現場の状況（当時）：真毒使用所（射撃場北側）、特殊弾格納庫周辺
- ・ 廃棄、放置及び隠蔽等の深さ（m）
 蛸壺に廃棄の可能性あり。
 （参考）蛸壺の形状：深さ3 m、横穴長さ1 m
 （深さは横穴長さ1 mを含む可能性もある。その場合は、深さ2 mとなる）
- ・ 廃棄、放置及び隠蔽等の広さ（面積）：不明
- ・ 現場の状況（現在）
 習志野演習場敷地内、泉公園周辺

④ 被害・被災の状況

・作業に伴う被害・被災の状況

・本件における戦後の被害・被災の伝聞

・救済・補償等の状況

⑤ その他

対応者記入欄

環境省記入欄